



グレーター・マンチェスター・クラブ活動報告

会長：平沢洋治

2015 年 1 月 30 日

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

本来であれば昨年度の年次大会が終了した時点で活動報告する予定でしたが、年が明けてからの報告となりましたこと、お詫び申し上げます。

昨年度は一昨年度に引き続きクラブの会員名簿およびその管理について見直しを行いました。1987年の発足時のままでクラブの会員名簿の見直しを怠っておりましたが、会員から高齢のため、等の理由で退会申し入れが多々あり、ようやく名簿を一新いたしました。調査は古い名簿に基づいて会員各位に調査票をお送りし、記入後返信していただく方法をとりましたが、連絡を頂けなかった方が多くおりました（連絡先の変更等が原因と思われます）。連絡を頂けなかった方には別の方法で住所等を調べ、なるべく調査漏れを少なくするようにいたしました。調査は名簿担当の塩谷さんにご尽力いただきました。現在この調査結果に基づいて運営をしております。クラブの会員数は223名で、調査前より少なくなっています。名簿はまだ不十分であり、今後さらに皆様のご協力で充実させたいと思っています。

[年次大会]

昨年 11 月 23 日に年次大会を前年度と同じくアリスアクアガーデン（東京）で開催いたしました。当日何人かが都合が悪くなり欠席されましたが、26名の参加者がありました。年次大会の目的は会員間の交流が第一でして、会場の様子から皆さん大いに楽しんで盛りあがっていたように思います。講演は乾 由紀子博士（大阪大学、京都精華大学非常勤講師）に“Photographic Postcards of British Coal Mining in the Early 20th Century”のタイトルで講演をしていただきました。20世紀初期の英国はポストカードが当時の英国の社会、経済、技術、文化すべての分野を反映した象徴的な出来事であったようです。炭鉱写真絵葉書とこれらの分野への役割についてご講演いただきました。



パーティの様子 1（右から 2 人目が乾さん）



パーティの様子 2



[各地域での活動]

関西地区では昨年5月大阪で、および新年早々には京都でパーティを開催しました。それぞれ9名の参加があ、楽しいひと時を過ごしました。



Drop in Party in Osaka(14. 4. 26)



Drop in Party in Kyoto (15. 1. 11)

[ネクタイ・スカーフの販売状況]

ネクタイ1本売り上げがありました。会員の方でまだ未購入のかたはぜひ購入してください。

[会員の広場]

マンチェスター大学 (School of Arts, Languages and Cultures) で教鞭をとっておられる保明綾さんより昨年末、街の様子および大学での学生生活の様子について寄稿していただきました。

マンチェスターの年末

マンチェスターに住むようになってはや 15 年以上の月日が経ちました。留学当初は、100 年以上前のロンドンで夏目漱石が感じたように重圧的な灰色雲に気が滅入っていましたが、ようやく最近になってイギリス独特の冬の到来にも慣れてきた感が募ります。今回は、マンチェスターの年末の様相を報告して欲しい、とのご依頼がありましたので、街の年末の様子を、現在私が所属するマンチェスター大学日本研究学における年末の描写も兼ねつつ、ご紹介します。

マンチェスターの冬の到来を告げるのは、やはり、いまは恒例となった市街地でのドイツ風クリスマス・マーケットだと思います。開催当初(もう 10 年以上にもなるかと思いますが)は、市庁舎のある Albert Square でのみ開催されていましたが、近年は St. Anne's Square など市街地各地で広範囲に亘ってひらかれています。また、当初は 11 月後半に始まったクリスマス・マーケットも最近では大体 11 月の第 2 週末に始まる場合が多く、今年も Manchester Evening New 紙が 11 月 14 日にマーケットが開かれたことを報じました。¹

Evening 紙が、「既に人々はグリューワイン [のに入ったカップ] を手で囲んで」暖をとっている、と報じた通り、多くの人々にとってクリスマス・マーケットを訪れる目的は、寒い中、ドイツのグリューワインやビールを飲み、これまたドイツから直輸入の巨大ソーセージを頬張り、市庁舎の建物の屋上にでん、と構えた巨大サンタを鑑賞しながらの友人・家族との歓談だといえます。私や私の同僚も、親睦を深めるために例年担当の学生をクリスマス・マーケットに連れていきますが、今年のある学生は、ベルリンのファースト・フードの、カレー粉をソーセージにかけたカリーヴォーストとグリューワインを手にしながらお喋りに興じていました。クリスマス・マーケットは他にもヨーロッパ各地の料理や特産品も手に入れることができますし、またクリスマス・プレゼントにうってつけの手作りの工芸品を売る出店も並んではいるのですが、やはり主役はドイツのグリューワインとソーセージのようです。吐く息が白くても、みぞれが降っても構いません。寒いだの、濡れるなど愚痴を言いながらもグリューワインを飲み、ソーセージをかじるのがマンチェスター・クリスマス・マーケットの真髄です。

さて、街ではきらびやかなクリスマスのイルミネーションが通りを飾り、一年で最大のイベントのクリスマスに町中が浮かれている中、わが日本研究では学期の終盤にかかり、学生はラストスパートで課題をこなしています。皆さんもご存知の通り、イギリスでの大学の成績は就職活動に影響するので、学生も必死になって勉強しています。

しかし、そうは言ってもイギリス。いつまでもダラダラと勉強はせず、折り目をつけて、遊ぶところは遊びます。というわけで、日本研究学でも 12 月 5 日の金曜日、週末が始まる午後 5 時から学内でクリスマス・パーティーを開催しました(ちなみに、このパーティーへは、日本からの交換留学生などにも参加を促しています。しかし、私たち教員が手助けしなくとも、学生同士がソーシャル・ネットワークを駆使して交流を図っているようです)。一応コスチューム・パーティーと名打ったこのイベントに、何人かの学生は力を入れてポケモンのキャラクターのコスチュームや日本のパンクロックのコスチュームなどで登場してくれました。学生どうしや学生と教員との親睦が主な目的ですが、日本研究ですので、そこはカラオケ大会を通じて、ということになります。去年日本の留学を終え帰ってきた 4 年生の学生は最近流行りの歌を熱唱し、みごと高いスコアを出してくれました。

パーティー後一週間が経った 12 月 12 日には、マンチェスター大学では今学期最後の授業が終わり大

¹ <http://www.manchester-eveningnews.co.uk/news/14-november-2016/market-opens-14-november-2016>

学はひっそりとしている中、翻って市街地はクリスマス前最後の商戦もあってさらに賑わいを増しています。翌週 19 日には小高校も冬休みに入り、街を歩く人々も既に休暇に入っている大人や家族連れなど様子が変わってきて、わくわくしたお祭り気分で充満されているようです。留学当初は、暗く寒いこの時期が苦手だった私も、ようやく今になってこの時期のお祭り気分を受け入れている自分がいます。

[編集後記]

1) 1863 年に伊藤博文、井上薫ら長州 5 傑が英国に渡り、その 2 年後の 1865 年に薩摩藩士 19 名が英国に密入国してから今年で 150 周年記念となります。彼らが日本の開国・近代化に大きく貢献したのはご存知の通りです。これらの歴史上のことを踏まえ、英国への感謝のメッセージを伝達すべく[日英友親交会]を設立された柴原徳光さん（ペンネーム：北広次郎）という方がマンチェスターに在住しています。彼は大局的な立場から英国・日本との親睦を深めようとしています。マンチェスタークラブの目的は英国北西部の人々との相互理解と親睦を深めることにあります。どちらも思いは同じであり、親睦を深めることにありますのでマンチェスタークラブとして柴原さんの活動を応援したいと思います。日英友親交会（<http://www.ajfea.info/index.html>）北広次郎資料館（<http://www.ajfea.info/history.html>）を覗いてみて下さい。

2) 今年はクラブのホームページの作成に取り組むことに致します。ホームページの作成にあたり、ご意見・ご希望等がありましたらぜひお寄せ下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

以上